

令和 2 年度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人材の育成を図る。	今年度の 重点目標	1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む 態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。ICTの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は70%であった。	授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が75%以上になる。	・主体的、対話的で深い学びの推進と授業研究会の充実を図り、授業でのタブレットや電子黒板を利用する教員の増加に繋げる。(R1:45%→R2:60%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。			
	みらいチャレンジ活動の 充実・発展	みらいチャレンジ活動も4年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動をとおして、主体的に活動できる力が身につく。	・ハイレベル講座を7月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。			
	学習習慣の定着	家庭学習時間を実施しているが、各学年とも、絶対的な学習時間が不足している。	体系的・組織的な「学習記録」を導入し、学習習慣が定着する。	・「学習記録」を導入し、自らの振り返りを通して、主体的に学習する習慣が身につくように指導する。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。			
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が38名・難関私立大現役合格者13名であり、目標を大きく下回った。	国公立大学現役合格者50名 難関私立大学現役合格20名	・学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒理解に努め、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・生徒の能力を最大限に引き出せるよう、講習等の時期や内容について検討し、効果的に実施する。			
2 他者を認め、人と つながる力の育成	基本的生活習慣の確立	挨拶ができなかったり、遅刻をする生徒も一定数おり、指導が必要である。令和元年度の遅刻者数は、1学級あたり平均で延べ35回であった。自己肯定感の高まりを感じる生徒が50%程度である。	・年間の遅刻者数が、1学級あたり平均で延べ35回未満 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が65%となる。	・令和元年度末に導入した「遅刻届」を活用して指導する。 ・掃除を徹底し、奉仕の精神を培い、校内美化に努める。 ・SNSモラルについて指導し、情報リテラシーの育成を図る。 ・探究的な活動や生徒会行事、ボランティア活動等、様々な活動を通して、生徒に達成感・効力感を獲得させる。			
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和元年度は運動部全国・中国大会37競技、文化部全国大会7部門が出場した。	運動部全国・中国大会20競技以上、 文化部全国大会5部門以上出場	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。			
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業等で実施している。	社会の一員となる意識が身につく。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。			
3 地域を知り、地域 に参画、寄与しよう とする力の育成	地域資源を活用した教育 活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。			
	学校の魅力・特色の情報 発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和元年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)	地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。	・「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」を同日に開催し、部活動の枠を超えたコラボレーションや学習成果など、学校の特色・魅力を発信する。企画・運営方法を早期に決定し、例年より早い時期に開催する。			
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究等で、時間外業務が増えている教員もあり、削減が急務である。	時間外業務時間月45時間、年間360時間以内勤務者の解消。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。			

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]